

国際ロータリー第 2660 地区

2023-24 年度のための地区研修・協議会 **SAA・クラブ奉仕・クラブリーダー研修**

部門 議事録

記録紙枚数 /

会場名	サブリーダー	
	役職	氏名
大阪国際会議場 10 階 1001-1003 号室	次年度クラブ奉仕・拡大増強委員会 委員長	樋口武英
	地区代表幹事	下條泰利
リーダー 役職・氏名		
ガバナー 宮里唯子		
議事録作成者	北村正行、尼田勝彦(大阪大淀)	

開会：(15 時 30 分)
発表者：クラブ奉仕・拡大増強委員会 副委員長 浜田 晋
【記録内容】開会 出席者紹介 ① 2022-23 ガバナー 宮里唯子様 ② 次年度クラブ奉仕・拡大増強委員長 樋口武英様 ③ 地区代表幹事 下條泰利様 資料確認 ① クラブで行う研修の内容・方法 ② SAA の役割について (上記 2 つは 1 冊にて 1 人 1 部配布) ③ クラブ研修用参考資料(1 クラブに 1 部配布)
発表者：23-24 DG 宮里唯子 (15 時 33 分)
【記録内容】リーダー挨拶 ・ 3 部門はクラブの活性化、運営に大きな役割を果たすことは同じである。 ・ SAA は例会において大きな役割を担う立場である。昨今、時間にルーズなクラブ、プログラム進行がうまくいってないクラブが多々見受けられるので次年度 SAA にはよく認識して例会運営していただきたい。 ・ クラブ奉仕とは「会員の満足度を上げなければいけない」奉仕である。 ・ 地区のクラブ奉仕・拡大増強委員長は会員増強及びクラブのビジョン作成を担っている。そのことを認識して樋口委員長の話を聞いて欲しい。 ・ クラブ研修リーダーは重鎮と呼ばれる活動をよく理解された会長経験者が多い。

発表者：23-24 DG 宮里唯子	(15 時 40 分)
<p>【記録内容】 クラブで行う研修の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none">・国際ロータリーの大きな変革時期である現在における研修方法やビジョンづくりが本日の本題である。・国際ロータリーもクラブ研修リーダーを大変重要と考えており、ガバナーも一部は役割を担っている。・それぞれのクラブで研修も違うと思うが、どんな研修が自分のクラブで必要か継続性含め考えて頂きたい。 <p>Ex：新人研修、フレッシュロータリアン研修、委員会研修、リーダーシップ研修</p> <ul style="list-style-type: none">・研修で My Rotary 内ラーニングセンターを積極的に活用いただきたい(資料①P3 - 7 参照)。・クラブの研修リーダーは研修計画を作成し(人選、研修内容、タイミング、頻度等)履修結果の発表を行うことが新入会員育成にとって大事であると考えている。・各クラブでクラブビジョン、行動計画及びクラブビジョン達成のために各年度会長理事による年次目標作成が重要である(資料①7 - 10 参照)・新会員のオリエンテーションも多様化によって考え直さなければならないのではないかと(資料① P11 上段参照)。・便利なツールを用いて各クラブの実情に合わせたツールを作成いただき新しい会員、若い会員を育てて頂きたい(資料①P11 下段参照)。	
発表者：23-24 年度 クラブ奉仕・拡大増強委員会 委員長 樋口武英	(16 時 8 分)
<p>【内容】 会員増強について</p> <ul style="list-style-type: none">・地区クラブ方針及び拡大増強委員会役割等、クラブ増強委員会役割等は地区増強セミナーにて発表する。・会員数が①100 名以上の RC②50 - 100 名の RC③50 名以下の RC 分けそれぞれの問題点を調査分析を行い、活動結果を水平展開する。こちらも地区増強セミナーにて発表。・究極のロータリー活動とは理念をベースに楽しいクラブを一体どう築くかということである。・少人数クラブでの奉仕活動の協業。会員増強、活性化に力を入れたいと考えている。・会員数が少ない RC でも増強に成功しているクラブは多いので調査分析し、結果を水平展開したいので各クラブは協力いただきたい。11 ある 20 人以下のクラブにも一緒になって勉強し、メスを入れていきたい。 <p>群れの経営/バーチャルカンパニー構想(樋口委員長の仕事で考え出したビジネスモデル)</p> <p>→少人数のクラブの解散や吸収合併回避への気づきヒントに</p> <ul style="list-style-type: none">・経営基盤が弱い中小企業が様々な事業リスクを避け企業の発展や経営体質を強化しプライドを持ってどうやって会社を運営するかという考え方で、群れることによって自社の弱みを排し、互いの強みを共有することによってお互いの経営基盤を強化することである。・自然の鳥や虫や魚などは集団で生み出す 4 つのルール(下記備考欄①参照)が存在するがこれらはすべてロータリーのクラブ活動に当てはまる。・グループ企業が寄り添って一つの企業を構成して自社の経営資源を有効に使いながら 1 社ではできない企業価値の向上を目指す構想。	

<p>ロータリークラブ運営や活動に当てはめると</p> <ul style="list-style-type: none">・奉仕活動をそれぞれの独自性を高めつつ十分でない分野を支えあい活動することである（具体例は下記備考欄②参照）。・以上の考え方を参考に高齢化、取り巻く環境の変化、会員数の減少による組織の衰退等を克服し、50人以下の小さいクラブが活力を持って地域に根ざした活動を続けられればと考えている。
発表者： 22-23 地区代表幹事 下條泰利 (16 時 21 分)
<p>【内容】 SAAの役割とクラブ運営について</p> <ul style="list-style-type: none">・世界のロータリーの動向 国別ロータリーにおいて会員数5万人を超える国は6か国であり(2023年3月時点)アメリカ、日本は会員数を減らし、ブラジル、韓国、インドは大きく会員数が伸長している。 *各国人数及び比率グラフはP12 下段参照 インド、韓国に共通して言えるのは会費が安く奉仕活動に注力しているクラブに若い人たちが多く集まっている。伝統的な親睦より奉仕のほうが大切という流れが現在、国際ロータリーの変化としてあると思われる。・国際ロータリーの変化を表しているのは2016年、2019年の規定審議会における制定案の採択である。16年の例会の頻度(最低月2回)形式、出席の柔軟性の改定内容は例会の重要性を認識した日本と国際ロータリーとの認識のずれが顕著になったと思われる。(詳細はP13 上段参照)・上記改定があったからといって国際ロータリーが例会を軽視しているわけではなくクラブを活性化させるには 会員の満足度向上が重要であり、最も大切なのは「クラブの体験」であると表明しており「例会での楽しみ」というのを表の1番に持ってきている。(P13 下段参照)・SAAの歴史、役割、職務(P14 - 16 参照)・魅力的で価値ある例会(P17-19)・SAAの適正かつ大胆な例会運営によりクラブメイトへのより魅力的な学びの場として出席率100%の例会を目指して頂きたい。・次年度はもう始まっており、素晴らしい例会をするためのSAAの重要性を認識し、今から準備に取り掛かって頂きたい。
閉会 (16 時 40 分)

備考・メモ

樋口委員長様補足事項

① 「群れに関する4つのルール」

- 1、現場の知識を重視する
- 2、メンバー間で相互作業を繰り返す
- 3、単純なルールを維持する
- 4、メンバーの行動に適度な多様性を残す

② 具体例

委員会活動の分担 勉強会の共同開催 同好会活動のオープン化 事務局や例会上の共同活動

2023年4月24日(月)までにWordのままメール添付でお送りください。

返信先：ガバナー事務所 E-mail : sugimoto@ri2660.gr.jp